

第2学年 「馬のおもちゃの作り方」 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」 単元構造図

単元名 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう

【単元の目標】

- ◎共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解することができる。
- ◎事柄の順序に沿って簡単な構成を考慮することができる。
- ◎事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。
- 語と語や文と文の続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
- 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文の続き方を確かめたりすること。

- 【知 (2) ア】
- 【思B (1) イ】
- 【思C (1) ア】
- 【思B (1) ウ】
- 【思B (1) エ】

【評価規準】

- 【知】 共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。 <(2)ア>
- 【思】 ・「書くこと」において、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えている。 <B(1)イ>
- ・「書くこと」において、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。 <B(1)ウ>
- ・「書くこと」において、文章を読み返し、分かりづらいところを書き直すなど、文章をよりよくしている。 <B(1)エ>
- ・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 <C(1)ア>
- 【態】 事柄の順序に沿って粘り強く構成を考え、学習課題に沿っておもちゃの作り方を説明する文章を書こうとしている。

【本単元で習得した資質・能力を活用する今後の学習】
 ・「おにこっこ」
 ・話題や自分の知りたいことを明らかにして、大事な言葉や文を見つめる。

【言語活動】
 単元を貫く課題「せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう」
 作り方を説明する文章を書く。

【第3次】

⑥ せつめいするおもちゃの、<ざいりょうとどうぐ>の書き方を考えよう。
 ・説明するおもちゃを確かめる。(とことこ車)
 ・おもちゃを作るために必要な材料や道具を書き出す。
 説明するおもちゃはとことこ車です。ざいりょうやどうぐは〇〇をつかいます。
 作り方のじゅんじょに合うようにしゃしんをえらびたいです。 【知 (2) ア】

⑦ 作ったおもちゃのしゃしんを<作り方>のじゅんじょにならべよう。
 ・<作り方>の順序に合うしゃしんを選び、並べる。
 4つのしゃしんを作ったじゅんじょにならべました。
 分かりやすい作り方のせつめいを書きたいです。 【思B (1) イ】

⑧ とことこ車の<作り方>のせつめいのしかたを考えよう。
 ・1年生に分かりやすい<作り方>の構成と順序を考える。
 ・説明の工夫を使って、<作り方>を4つ(「まず」「つぎに」「それから」「さいごに」)のカードに書く。
 作り方のじゅんじょでせつめいを考えました。
 もっと分かりやすくするために、なまかと考えたいです。 【思B (1) イ】

⑨ 「まず」「つぎに」カードの文しよを見なおし、1年生に分かりやすいせつめい文にしよう。
 ・考えた<作り方>の「まず」「つぎに」のカードを紹介しあう。
 ・「まず」「つぎに」カードに、分かりやすい言葉を付け加えたり、直したりして説明を工夫する。
 長さや大きさのことはをくふうしました。
 たいわをして、「ぐるぐるまわして」をつかうと分かりやすいと教えてもらいました。 【思B (1) ウ エ】

⑩ 「それから」「さいごに」カードの文しよを見なおし、1年生に分かりやすいせつめい文にしよう。
 ・考えた<作り方>の「それから」「さいごに」のカードを紹介しあう。
 ・「それから」「さいごに」カードに、分かりやすい言葉を付け加えたり、直したりして説明を工夫する。
 わゴムとおす場所のことはをくふうしました。
 たいわをして、「〇〇をつかって」をつかうと分かりやすいと教えてもらいました。 【思B (1) ウ エ】

⑪⑫ おもちゃの作り方を分かりやすく書こう。
 ・4つのカードをもとに、順序を意識して分かりやすく書く。
 「まず」「つぎに」を使ってじゅんじょに気をつけて書きました。
 長さや大きさを書き足しました。1年生に早くしょうかいしたいです。 【思B (1) イ】

⑬ 書いたせつめいを読み合い、くふうしているところを見つけよう。
 ・説明を読み合い、工夫していると感じたところを友達に伝える。
 ○〇さんは、「それから」をつかってせつめいしていました。
 しゃしんを見るように書いてあるのも分かりやすかったです。 【思C (1) ア】

【第2次】

③④ <作り方>のせつめいのくふうを見つけよう。
 ・<作り方>を読んで馬のおもちゃを作る。
 ・説明の大事なところに気付いて、1年生に分かりやすい説明の工夫を考慮することができる。
 作る順番や長さを書くと、分かりやすいせつめいになります。
 また、写真や図があると、そうぞうしやすいです。 【知 (2) ア】

⑤ どんなまとまりとじゅんじょで書かれているかを読み取る。
 ・順序や数を表す言葉、写真や図、文のまとまりを読み取る。
 4つのまとまりで書かれてあり、じゅんじょ、作る、あそぶのじゅんじょです。
 しゃしんも、まとまりの1つずつにあり、1年生に分かりやすいです。 【思C (1) ア】

【第1次】

- ① 「馬のおもちゃの作り方」 「おもちゃの作り方をせつめいしよう」を読み、単元の学習のながれを確認しよう。
- ・生活科で作った手作りおもちゃを思い出す。
 - ・単元のめあてや学習の流れを確認し、説明のしかたや工夫を見つける学習であることを確認する。
 - ・わからない語句や漢字を確かめる。
- わたしは、せつめいの文を書くための工夫を見つけて、読む人にわかりやすいおもちゃのせつめい文を書けるようになります。
- ② 作ったことのあるおもちゃを思い出そう。
- ・今まで作ったおもちゃをならべて、自分がせつめいしたいおもちゃはどれか考える。
 - ・作ったときに撮影した写真を見ながら、どこが難しかったか思い出そう。
- わたしは、とことこ車の作り方をせつめいする文を書きたいです。
 わけは、作ったときにわがむをとおすところがわかりにくかったからです。

【ICTの活用】

- ・生活科でおもちゃを作りながらできあがる様子を記録する。
- ・画像を映し出し対話する。
- ・「ことばのたからもの」を利用して説明の文章を作る。

【言語についての知識・理解・技能】

- ・新出漢字を学習する。
- ・わからない語句を調べる。

【児童の実態】

- ・対話活動では、自分の意見をノートや教科書を見せながら聞き手に伝える意識をもって話す児童が多い。
- ・対話活動で聞いた意見の共通点や相違点を見つけることはできるが、見つけたよさを自分のものにする児童は少ない。
- ・対話活動で得た意見を受け止め吟味し、使うか使わないかを判断し、決定できるようにしたい。

第2学年 国語科学習指導案		授業者	服部 直美	場所	2年1組教室
単元名	単元名 せつめいのしかたに 気をつけて読み、それをいかして書こう 教材名 「馬のおもちゃの作り方」「おもちゃの作り方をせつめいしよう」			本時	10 / 13
ねらい	「とことこ車」の作り方を説明したカードを見直す活動を通して、言葉の使い方を工夫すると、1年生に分かりやすい書き方になることに気づき、文章をよりよくすることができる。				
過程	本時の展開				
	学習内容			指導・援助	※評価規準
む (5分)	<p>1. 前時までの学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活科で作ったおもちゃの中から1年生に伝えたいおもちゃの<作り方>の説明の言葉を4つのカードに書いた。 「まず」「つぎに」カードに言葉を付け加えたり、表現を言い換えたりすると分かりやすい説明文になった。 <p>2. 本時の課題を確認する。</p>			<p>□前時までの<作り方>について考えた4つのまとまりの構成を振り返り、本時の課題をつかんでいるか。 (発言内容・つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時までの板書やノート(カード)を使って、本時の活動を確認する。 	
考える (10分)	<p>「それから」「さいごに」カードの文しょうを見なおし、1年生に分かりやすいせつめい文にしよう。</p> <p>-----</p> <p>【考える視点】</p> <p>つけたす どこに どのように</p> <p>-----</p>			<p>□さらに分かりやすい説明の文章にするために、言葉の使い方の工夫を考えているか。 (発言内容・カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> 電子黒板にある例文は、分かりにくい文章であることを確認する。 「馬のおもちゃの作り方」「けん玉の作り方」で学習した「言葉の使い方のくふう」を提示する。 付け足す言葉を青付箋に書くように助言する。既に付け足す言葉が書かれている児童は青鉛筆で印をする。 自分達の構成メモで、1年生に分かってもらえるか問いかける。 	
深める (20分)	<p>3. 電子黒板に表示された文章を読んで、「なぜ、分かりにくいのか」を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の場所(位置)を書いていないので、どこにを入れる。 →「カップの<u>あなに</u>」 理由や方法を書いていないので、どのようにを入れる。 →「<u>とれないように</u>」「<u>ようじをつかって</u>」「<u>ひっぱりながら</u>」 <p>4. 「それから」「さいごに」カードに言葉を付け足す。(個人追究)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「カップの<u>あなに</u> わゴムを とおします。」 「<u>とれないように</u> テープで はります。」 <p>5. グループ対話をして、さらに言葉を付け足す。(グループ追究) (深める対話)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>① 「カップに わゴムを とおします。」</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>② 「カップの<u>あなに</u> <u>ようじをつかって</u> わゴムを とおして テープではります。」</p> </div> <div style="font-size: 2em;">→</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>③ 「カップの<u>あなに</u> <u>ようじをつかって</u> わゴムを とおします。 <u>とれないように</u> テープではります。」</p> </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> 作った文章を読み返しながら対話する。 			<p>□グループで出した意見を、カードに付け足して分かりやすく説明しようとしているか。(記述内容・発言内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年生、発表者、アドバイザーと役割分担して対話する。 グループで出した意見を桃付箋に書き足すように助言する。既に付け足す言葉が書かれていることを見つけたら赤鉛筆で印をする。 今までの学習で使った表現を示した児童を価値付ける。 <p>□工夫した言葉の使い方が付け足されたことを確認し、分かりやすい文章になったことを振り返る。 (ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 振り返りを書けずにいる児童には、板書の言葉を使って書くように助言する。 	
まとめる (10分)	<p>6. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あな」を入れたので、カップの<u>どこに</u>とおすのか、分かりやすくなった。 わゴムをとおすところがむずかしいので、「<u>〇〇をつかって</u>」を入れると分かりやすい。 <p>7. 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 材料の「場所(位置)」を入れると1年生に分かりやすい。 「<u>〇〇をつかって</u>」「<u>～ように</u>」を入れるとより分かりやすくなる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>(例) ゴムをとおす<u>場所のことば</u>をくふうしました。 たいわをして、「<u>〇〇をつかって</u>」をつかうと分かりやすいと教えてもらいました。</p> </div> <p>8. 次時の学習内容の見通しをもつ。</p>			<p>※評価規準</p> <p>文章を読み返し、言葉を付け足したり書き直したりして文章をよりよくしている。 <思 B(1)ウ エ></p> <p>・分かりやすい言葉を付け足す視点で対話できたグループや発言を価値付ける。</p>	

